

みんなでプロデュース「まつぶし逸品（特産品）」開発事業

－No.63 松伏町－

【事業の目的】

平成 27 年度に策定した「松伏町まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、人口減少時代における町の課題の一つとして、町の認知度不足、町の魅力の発信不足が挙げられています。課題を解決するため、総合戦略の中では、地域資源を有効活用し、情報発信することをはじめ、潜在的な魅力や資源を発掘し磨き上げ、究極的には「松伏ブランド」の構築につなげることを視野に、町のイメージアップのための幅広い取組を行うこととしたところであり、本事業についても、総合戦略での考え方、位置付けの下に実施するものです。

そして、「まつぶし逸品」の開発を行うだけではなく、事業を通して多くの方に関わってもらうことで、逸品をみんなでプロデュースし、町の魅力発信、認知度アップを図り、町に対して興味や愛着を持ってもらうことを目的とします。

【事業の内容】

産（商工会）、官（町）、学（大学生等）、農（町内農業者等）、言（地元マスメディア）が連携する会議を立ち上げ、意欲のある事業者の公募、選定を行い、検討会を組織します。その後、検討会において作成した試作品を町内外で複数のイベントへ出品し、アンケートや投票によって広く意見を収集します。

収集した意見を基に検討会で更に試作を重ね、開発された商品の名称についても公募をすることで、町の地域資源を活用した「まつぶし逸品」をみんなでプロデュースし、開発します。

また、開発段階から完成まで地元マスメディアと連携を図り、松伏町の魅力を広く町外へPRします。

【事業年度】

平成 29 年度

【予算額(千円)】

9,962千円

【財源】

ふるさと創造資金（県）、一般財源（町）

【事業実施に至った背景・経緯】

松伏町は、東京から30キロ圏内にありながら、自然が多く残り、都市化が進んだ周辺市に比べ農業が盛んです。

町で収穫される農産物（米や野菜）は、松伏町が大消費地の東京に近いこともあり、新鮮でおいしいと評判も良く、貴重な地域資源の一つとなっています。

町では、こうした地域資源を更に活用していくため、地場産農産物を使用した商品や特色ある商品を「松伏町推奨特産品」として指定し、地産地消を進めるほか、商品を通じた町のPRを行っていますが、事業規模も小さく、広く町外まで情報を発信するには至っていないことが課題となっています。

【事業のPRポイント】

- 松伏町の地域資源（米・野菜）を活用してPRします。
- 産学官農言連携で様々な分野の意見を取り入れます。
- 様々なイベントで広く意見を集め、名称も公募で、「みんなでプロデュース」します。
- 開発から完成まで地元マスメディアとの連携を図り、事業を通して松伏町の魅力を広く発信します。

【今後の展開】

産（公募によって選定された町内事業者・商工会）、官（町）、学（大学生等）、農（町内農業者等）、言（地元マスメディア）の連携する検討会を組織し、「まつぶし逸品」開発段階における取組（町内イベント等へ出品、アンケート・投票による意見募集など）を実施することで、取組に参加していただく方の町への親近感、愛着、思い入れの醸成を図っていきます。

また、地元マスメディアと連携を図り、町の魅力の発信、認知度のアップに努めていきます。

【参考資料】

事業イメージ図

〔 連絡先 〕

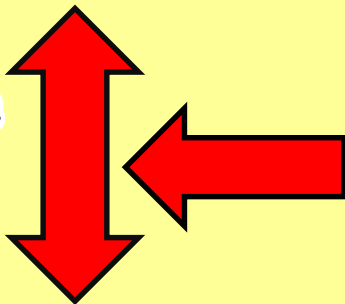
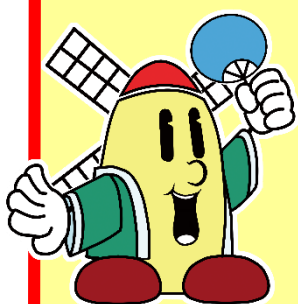
企画財政課 総合政策担当 048(991)1818

みんなでプロデュース 「まつぶし逸品」開発事業 (松伏町)

開発手法



- 産**
 - ・公募により選定した事業者
 - ・商工会
- 学**
 - ・大学生等
- 官**
 - ・町
- 農**
 - ・町内農業者
- 言**
 - ・地元マスメディア



町内外イベント

- ① 特産品開発委員会を組織し、松伏町の地域資源(米・野菜)を活用した試作品を製作する
 - ② 町内外イベントへ試作品を出品、アンケート等で広く意見を収集(パッケージも)する
 - ③ 収集した意見を試作品に反映させる
- ※②③を複数回繰り返す
- ④ 名称を公募で決定する

ポイント!

- ・松伏町の地域資源(米・野菜)を活用してPRする!
- ・産学官農言連携で様々な分野の意見を取り入れる!
- ・様々なイベントで広く意見を集め、名称も公募で「**みんなでプロデュース**」する!
- ・開発から完成まで地元マスメディアとの連携を図り、事業を通して松伏町の魅力を広く発信する!



- 松伏町の魅力発信・認知度アップ!
- 松伏町に親近感・愛着・思い入れを持ってもらう!